

コスモス

札幌市立北陽小学校

<https://www.hokuyo-e.sapporo-c.ed.jp/>

これからの社会を担う子どもたちのために

教頭として北陽小学校に着任し、1か月が経ちました。校内を歩くといつも子どもたちから「おはようございます。」とお辞儀を交えて挨拶されます。これまで、私は誰よりも先に笑顔で挨拶を明るくすることを自負してきたため、着任早々に「なるほど、これはやられたな」と思わず嬉しさで笑みがこぼれました。北陽小学校の子どもたちはとても愛らしく、人懐っこく、何より気持ちがとても澄んでいる、透明さがあります。素直に子どもたちや、保護者の皆様との、ご縁に心から感謝の気持ちを第一に覚えました。

私は、子どもの思考や人格の形成を支える教職員との出会いもとても大切にしています。教頭という役割から、職員室でさまざまな事象の調整をとる業務が中心のため、教職員と過ごす時間は児童よりも多いかもしれません。職員室には笑い声があふれ、それと同時に教育活動の内容が、子どもたちにとってより良いものになるにはどうしたらよいかと相談を受けることもありますし、それぞれの学年で案を持ち寄って時間をかけて練っている様子もよく見かけます。私たち教職員は、目の前の子どもたちの更なる成長のために学校長の示す学校経営方針「しなやかな北陽の子」の具現化となるよう、子どもを大切に想い、教育活動を推進しています。

「しなやかさ」とは、端的に申すところ【調整力】といえます。調整力とは、状況を受け止め、必要に応じて自らの考えや行動を調整できる力です。

- 相手の立場を理解しようとする努力
- 自分の考えを落ち着いて伝える力
- 状況に応じて行動を選び直す柔軟さが、必要不可欠です。



これらは、すぐに身に付くものではなく、日々の関わりの中で少しずつ少しずつ育まれていきます。そして、それらが積み重なることで、変化や困難に直面しても折れずに立ち向かう「しなやかな心」が形づくられます。これからの社会を生き抜くうえで、知識や技能といった学力と同じくらい重要な資質能力です。

私は、先生方に「いってらっしゃい!」と笑顔で送り出し、目の前の子どもたちに少しでも長く温かい眼差しを向け、悩んでいることには一緒にじっくり向かい合い、たくさん微笑み合う時間を過ごしてほしいと強く願います。目まぐるしく忙しい時代だからこそ、ふっと、雨降りのあとの土の匂いに初夏の季節を感じたり、人と人との繋がりや温かさに思いを巡らせたりすることが、本来大切にされるべきことなのかもしれません。心の豊かさから、子どもたちの小さな変化と一緒に感じてほほえみ合ったり、笑い合ったりして、「学校って楽しいな」「自分の居場所なんだな」と感じられる空間を1つでも2つでも増やしたいのです。

直接児童に携わる機会が担任の先生よりは断然少なくなりました。ですが、教頭の役割を担うことで間接的に子どもたちに深い愛情を伝えていき、目の前の身近な大人として「誰かのためにやり遂げたいことを明確にして学び続けることは、とても楽しい。」という姿を伝え続けていきたいと思えます。そのために、子どもや保護者の皆様、地域、教職員の声に真摯に耳を澄まし、誠実な対応に努めるべく、教職員の子チームを生かした教育活動を推進していきたいと思えます。